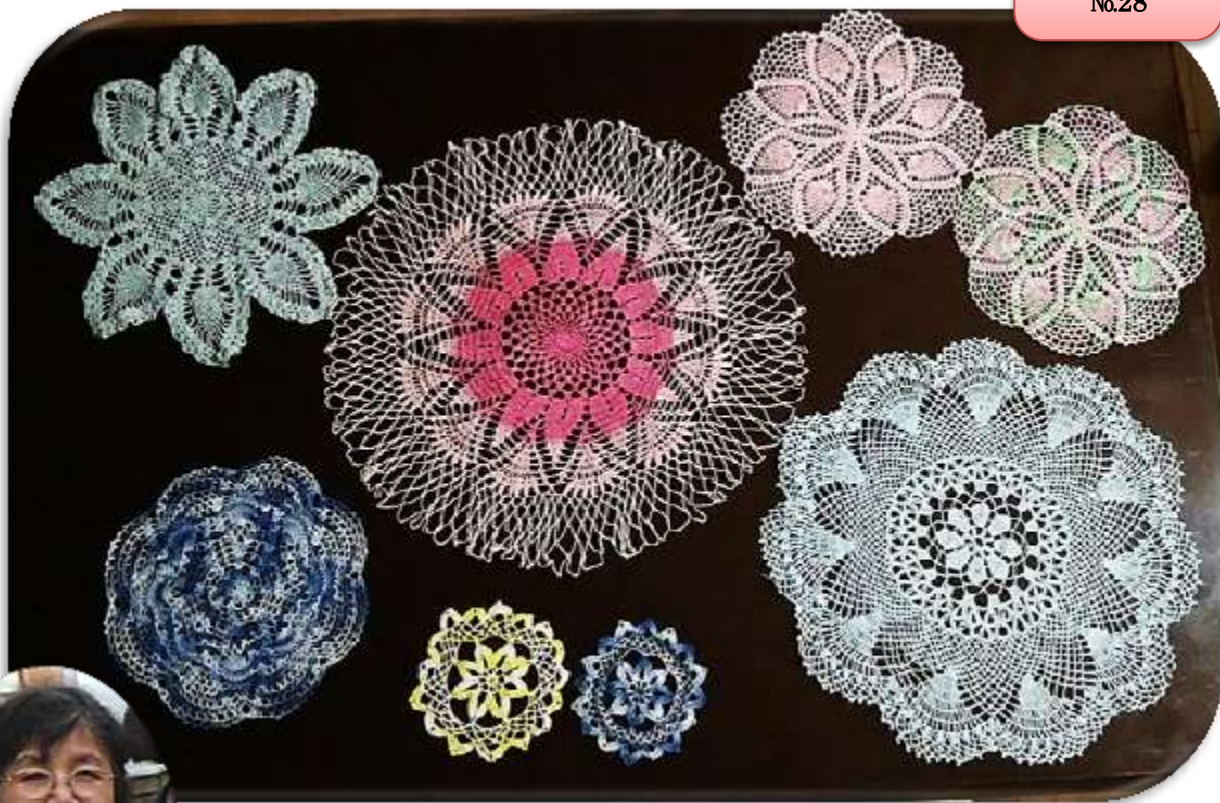


OB会 だより

挑戦シリーズ
No.28



定年後の人生

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる。

その一人 折茂スミイさん 「レース編み」に挑戦し、楽しんでいる。

今から 50 年ほど前、薄いガーゼ布にレースの縁取りをしたレースハンカチを作ったのが初めての作品です。子供の枕カバー、洋服の襟飾りなど作っていた頃を思い出します。最近、糸も色も豊富になり、作品の仕上がりもあでやかで美しいです。網目は一目が小さく細かいですが、編み進んでいくうちに予想以上に素敵な模様が浮かびあがってくるのが楽しいです。大小のドイリー、小さなモチーフをつなぎ大きなテーブルセンター等々、置き場所で部屋の雰囲気が大きく変わるのもレースの魅力です。大敵の認知症予防を期待して編み続けます。

(折茂さんは浦和民主診療所、埼玉協同病院に看護師として勤務しました)

新入会員紹介

よろしくお願いします



♪♪前田 幸子さん♪♪

娘が NS なので2人の孫の世話をしながら、一緒にピアノやマンドリンの練習をしたり、家庭菜園を楽しみながら、夫婦でのんびりとくらしています。総会の資料をいただき立派に活動されていることに驚きました。なつかしい思いを込めて入会します。

(前田さんは川口診療所、埼玉協同病院に勤務しました)

♪♪麦倉 トヨ子さん♪♪

協同病院食養科の入職からスタートし、患者さんの顔が見える職場として外来医事課への異動を申し出てから事務職を続けてきました。川口診療所にも3年勤務しましたが、ほぼ協同病院がホームベースでした。協同病院はC館、D館、F館と、どんどん大きくなりましたが、医療情勢も変化し、患者負担、介護サービスの制限等々、利用者にとっては病気の心配よりお金の心配をせざるを得ない状況になってしまいました。組織担当になってから、地域の組合員さんと一緒に行動することにより、病院内の事務だけをやっていたら見えなかった多くのことが次から次へと見えてきました。地域の組合員さんの支えは半端でなく大きいことに驚きました。これから何ができるだろうと考えてみると、「目標を持つこと」「考える事」「動くこと」をしなくなったらおしまいになってしまうなあとつくづく思います。



私の近況

★ 愛媛・松山から 和田 美津保さん

早いもので、退職して松山に帰ってもうすぐ5年が経ちます。

のんびりゆったりな松山生活を楽しんでいます。松山が、2週続けてNHKの「ブラタモリ」で紹介されました。松山で育っていても、自分が通った高校に堤跡があったこととか、石手寺が今の何倍もの広大な敷地だったとか、知らないことがたくさんあります。郷土の歴史を調べるのも面白そうです。

年末年始は忙しく出歩くことはないのですが、今年は娘婿が来ていて、ほとんど地元にはいない塩崎恭久大臣が、道後温泉で子ども(孫?)連れて歩いているのを見かけたとか。伊方原発の再稼働の問題もありますから、わざわざ人の多いところに出かけて、地元のアピールしているのでしょうね。道後温泉本館も、来年10月頃から、9年かけでの改修予定です。改修前に古い道後温泉本館を見に、是非松山へお越しください。



★ 田中 久子さん

昨年10月初めにマンション7Fに転居しました。築94年の家でしたから引っ越しも大変でした。結婚以来52年、3人の子どもや孫を見守ってくれた家でした。一大決心でした。今はやっと落ち着き、朝夕ベランダから秩父の山々をながめてホッとしています。これからは趣味に活動に精を出そうと思うこのごろです。

★ 山形 文子さん

総会では本当に久しぶりの方々に逢うことができよかったです。肥田先生、寺島先生、高橋先生とお話できて励まされました。60代ではまだまだ役割を持って生きていかねば!! と毎回思います。ご参加の皆さん、人生の目的や理想を持っているからでしょう。現役活動家ばかりで頼もしい限りです。当地でも2000万署名を少しずつ集めています。広げていくためにはもう一工夫が必要です。

★ 阿部 テイさん

遅くなりましたが、26回総会議案そして戦後70年「私のメッセージ」をお送りくださいましてありがとうございました。50人のメッセージを冊子にまとめるのは大変な作業だったと思います。きれいな写真をふんだんに入れて、丁寧な出来上がりに感心しました。それぞれいろいろな人生があって、「そんなことがあったんだあ・・・」と知らない面を知って、この製作にかかわったすべての方に感謝です。相変わらず母のところに毎月行っています（青森）。退職慰労の支給も今年で終わるので交通費が大変です。



★ 高橋 静枝さん

所沢診療所に入職、ケアセンターとみおか・居宅介護支援センターとみおかに異動、退職となりました。現在、退職時の職場に週5日パートで働いています。ずっと車通勤でしたが、今は自宅→新所沢駅まで30分歩き、ここから職場までバスです。仕事（ケアマネ）が好きで、少しでも利用者さんの力になれたらいいと思って働いています。

★ 梅原 恭子さん そろそろお地藏さん？

先日、近所の図書館で友人と待ち合わせをしていた時のこと。スクーターに乗った女性がやってきて停車、大きな声で電話を始めた。手作りのクッキーを焼いて友人のところに持ってきたが不在らしく電話を切りこちらを見た。私は

というと愛想よくにっこりして「ごめんなさいね。聞くつもりはなかったんだけど」とごによ、ごによ。女性は「これも何かの縁だから差し上げるわ。友人は田舎に帰省中なの」もちろん一応遠慮はしたものの結局はしっかりいただきました。大変おいしかったです。後で娘にこの話をすると「お母さん、そろそろお地蔵さんに近づいているね。だってお地蔵さんは黙って立っているだけなのに、皆が何か食べ物や果物をもってきて拜んでくださるよ」と。まだ「拜まれて」までには到達していませんが、長年の秘かな修行の結果が一気に花咲いてくる予感。

★ 浦川 恵子さん 蔵王だより ～身近にあった思い出の高山植物～



コマクサ



イワカガミ



ワタスゲ

思い立ったらすぐ出かけられるのが、地元の良さ。

車で20分余りのコマクサ平では高山植物の女王コマクサが咲き始めていた。保護はされているが、積極的には栽培されていないので多くない。瓦礫の中に可憐な姿を見せてくれる。更に約10分、山形県に入るとすぐに御田ノ神湿原に到着。イワカガミ、ハクサンチドリ、チングルマ、舞鶴草、ツマトリソウなど例年より早く咲き誇る高山植物。何より心に残ったのは風に揺れるワタスゲ達。今は思い出の人となった小早川さんに連れられて行った尾瀬で教えてもらい、それ以来大好きになった花だ。蔵王の風に吹かれながら、思いがけず思い出の風景と向き合うひと時であった。



秋旅のお知らせ

★栗生楽泉園と草津温泉

★日時：9月15日～16日

詳細は同封の別紙をご覧ください



手前の建物群が栗生楽泉園、奥の高い山が白根山

民医連退職者の会 第13回総会 2016年5月16～17日：横浜市



第13回総会は、18県連の代表71名、役員など含め89名の参加で開催されました。埼玉からは畠田・松倉・海老塚・小嶋・早田・仲村、16日のみ参加の権田・小野・山口さんの9名と小川全国幹事の参加でした。熊本地震被災地から安田代表が参加、被災状況の訴えに応え会場カンパが行われ、約10万円がその場で渡されました。



全日本民医連長瀬文雄副会長による「“いのちの平等”をめざす民医連運動の今日的課題」と題した記念講演は、参加者に大きな感動と確信を与える講演でした。討論は退職者の会が共通する課題「財政問題・新入会員」等を中心に行われました。



「民主診療所63年」を学ぶ

権田 圭助

5月16日から17日にかけて横浜で開かれた「民医連退職者の会全国連絡会の第13回総会」に参加させていただきました（私が出席しなければならない別の団体の会議が17日だったため、やむなく16日だけの参加となってしまいました）。

実はなつかしい人、とりわけ前代表幹事だった増田峰夫さんにお会いできればと期待していましたが、増田さんの顔を見ることができず大変残念でした。民医連はレッドパージの被害者によって創られたもので、増田さんも私もその一人でした。

全日本民医連副会長の長瀬文雄さんの特別記念講演は、私にとっても感動的なものでした。初期の民医連運動の高揚、そして綱領を作り、悪戦苦闘の運動の中からその改定の努力、今日の民医連の果たしている役割の大事さを聞き、OB会の一員でよかったなあと痛感しました。



特別記念講演に感動！！

(16日のみ参加) 山口 昭子

このたび総会に参加させてもらいありがとうございました。最初に思ったのは、高齢化している人が多いな！ということです。もう少し若いんじゃないかな と。

私が感動したのは特別講演です。民医連の歴史と闘いです。医療の荒廃、弾圧、それに立ち向かってきた諸先輩方の苦勞、そうした積み重ねが絆を強くし、現在があることを改めて学びました。近年、医療の中身が、介護問題、長生きする国民の医療が、あまりにも課題の多いことや、複雑化して肝心の国民に寄り添った医療が見えなくなっているのでは・・・などを考えさせられました。

現況調査のまとめもわかりやすく、全国の様子がわかっていいですね。

久しぶり参加した 全国連絡会総会

松倉 徳子

全日本民医連副会長長瀬文雄氏の講演はとても感銘しました。戦前の無産者診療所がつぶされてもつぶされても、侵略戦争反対、全ての人びとの人権をかけた、それを支える人たちの力をかりて復活し、“根っこ”を枯らすことなく今に繋げてくれた大先輩達の苦難の闘いの歴史は胸に迫るものでした。総会方針は「会員拡大」「会費、財政問題」にしばって論議されましたが、どこでも同じような悩みをかかえて活動している事が何年経っても変わらないな？と、感じました。埼玉も“絆ネット”を更に活かし、会費3000円にふさわしい活動、取り組みを会員の意見を聞き進められるよう考えたいです。各県の“ニュース”は数年前からみると、格段にきれいで読みやすいものになってきていると感じました。“OB会だより”は会員全員に届けられる大切な繋がり、確認しよう。

全国の仲間の姿が伝わった2日間

海老塚 利明

全国からの参加者89名がローズホテル横浜に集いました。

「いのちの平等をめざす民医連運動の今日的課題」と題する長瀬文雄全日本民医連副会長の特別講演は、戦前の無産者診療所運動、映像を使っている創立時からの戦い、倒産など多くの困難を経験し、それを乗り越えながら今日の民医連があることに



あらためて確信をもちました。

総会方針では、戦後最悪の反動政治と立ち向かい、反戦・平和・民主主義の戦いと民
医連退職者の会の課題について提起があり、各県連より発言・討議しました。夜の交流
会では、県連ごとに退職後もそれぞれの地域でがんばっている全国の仲間の姿が伝わり、
有意義な2日間でした。



青柳みどりさんを偲ぶ

水野 岩子

病室に入ると、生前好きだったろう“さだまさし”の曲が
流れ、窓からは校庭の桜の花が霞んで見えた。

みどちゃんの顔に、ローズマリー（ハーブ）の枝をそっと近づける・・・
二週間前には声をかけると大きく眼を見開いていたのに、今は人工呼吸器の規則的な音
のみ。「手もむくんじゃった」数十日の看病疲れが垣間見える夫のヤギさん。むくんだ手
をマッサージしながらアレコレと話す。みどちゃん！ 聞いていますか？

三カ月前だったか、フッと我が家に立ち寄ってくれたみどちゃん。
体調不良だったのか、ちょっと弱音。春になったら我が家のこぼれ種から生えた苗がた
くさんあるから、新築した家の広い庭に植えよう。持っていくね。と。私は畑に行っ
ては何時も持っていくか考え、楽しみにしていたのだ。

その日、身を引き裂かれるような思いで病室を出る。その一時間後、寺島先生が見え
た時、急変したという。私は重い気持ちで田んぼの土手で風に吹かれていた。

翌朝、みどちゃんの庭をみると3本の“ときわまんさく”が植えられ、紫色の花が咲
いていた。しばし我を忘れ、みどちゃんの思いを想像した。冥福を祈る。

青柳みどりさん、

野田剛さんとの思い出

松本 トシ子

4月7日青柳みどりさん、5月2日野田剛さん、現職中親しく接していただいた2人
が59歳という若さで相次いで旅立ちました。

青柳さんは片耳が少し遠く、肩をたたきながら「オハヨウ」「今度旅行に行こう」など
と声をかけ、協同病院時代を楽しく過ごしました。退職後、OB会の旅行に一緒に行っ
たことも忘れられない思い出です。今年の夏も浦和・伊勢丹の、戦争展に行く計画を昨

年から立て楽しみにしていましたがとても残念です。自宅の階段から落ちたのが原因とお聞きしました。

野田さんとは30数年前に医療部会の新人研修会に参加した時からの付き合いです。同僚から上司になり指導されてきました。思い出は数えきれないほどありますが、失敗にも声を荒げることもなく注意してくれたこともありました。退職後わずか2か月、楽しみはこれからだったのではないのでしょうか。

お二人のご冥福をお祈り致します。



戦後70年・被爆70年 「私のメッセージ」集を読んで

4月号に続いての感想特集です。
平和への歩みを止めることなく 一步一步
進んでいきましょう。



あらためて戦争への怒りが

藤田 悦子

たくさんの方のメッセージを感動しながら読ませていただきました。

「生かされた命を伝えたい・・・」と、私たちの経験しなかった被爆地の体験や戦後の混乱の中で生きてこられた母と子の葛藤、また戦争を知らない世代の戦争法に対して平和への熱い思いなども、とても楽しく思いました。

人生の最も素晴らしいはずの青春時代を、戦時中から戦後にかけて過ごされた方の取り戻せないあの歳月に、あらためて戦争への怒りを感じたメッセージの数々でした。

50人も集まったのですね！！

金子 仁志

50人分集まったんですね。最初20人くらいかなと思っていたので、驚きました。私の場合は「戦後70年」と今の自分がどう結びつくのか見いだせないまま、「原稿を送って」と催促されたことで、とりあえず作って載せてもらいました。

それに比べ、自分の思いや歴史をしっかりと書いている方がたくさんいて、自分のいい加減さを知らされました。編集は特にカットがきれいです。また写真もたくさん使われて、いい感じです。どうもご苦労さまでした。

現在につながる思いや行動が現われて

山形 文子

総会の後一気に読みました。多くの皆さんの人生や、埼玉民医連の歴史がつまっている文章ばかりでした。今回書かなかった方も、自分の思いや人生を綴ってみようと思われたのではないのでしょうか。思い出ばかりでなく、現在につながる思いや行動が現われている文章が多いと感じました。

(写真やイラストも多く、わかりやすくよかったと思います)

「私のメッセージ」によせて

我妻 幸寿

3月の中ごろ東京民医連退職者の会総会で、全国連絡会川口事務局長よりこの本を紹介され、数日後小川さんに電話をしたら「故克代の分として送付する予定」とのお返事をいただきました。到着後数日、克代の仏前に供えさせていただきました。大変立派なものことができましたね。ありがとうございました。

目録を見て私が知っている方は10人おりました。なかでも1980年代に医学生対策と一緒に活動した方が2人おりました。一人は5月初旬川口社保協総会で挨拶をしました。私の今の活動で心強い方にお目にかかれたと思っています。また「山びこ学校」も関心をよせて読ませてもらいました。学校のあった山元村はなくなりましたが部落の名が残っていました。育った時代、農村（私は宮城の蔵王の方）と共通した点が「65年ほど経っても、同級生たちは村のことを忘れず、小さいころの燈がいまだに消えず。今度75歳の集まりを楽しみに待っています」（ここの表現が上手いですね）私の心に共鳴しました。私もこの7月に仙台での同窓会に出席する予定です。

私は2006年に東京民医連退職者の会で「20周年記念文集」を作り編集に携わりました。今年30周年記念文集を発行した折に20周年に目を通して気づいたことは、私個人で知っているだけでも10数人が亡くなっていることです。役員会にくる法人の人でもその人を知らない方もおりました。10年の歳月というものの重さを痛く感じました。その意味で「私のメッセージ」の10年後に、今は気がつかない価値が出てくるでしょう。この冊子は立派な意味があるのではと思います。



さて、故克代が20年ほどお世話になった方々の目に留まる文章なので一言お礼を申し上げます。故人は病院に入る前は東京の港区で10年党専従、10年港新婦人専従、同じころ私は診療所、芝病院の事務長（東京でもトップクラス累積赤字法人）、東京民医連の医学対等、夫婦で夜が自由にならない活動にかかわっておりました。子ども二人は克代の母に見てもらいました。川口・前川でこの生活にいきづまり、転職になったものです。故克代の癌が発見されたのも、有明癌センターから退院したあとも、最後を看取っていただいたのも埼玉協同病院・産科病棟の医師と看護婦の皆さんでした。当人は勿論、家族も心から感謝しております。

今、私の主たる活動地域が協同病院のある地域、神根です。ここは生協組合員も多く、このエリアで「後援会」として地域の民主化と住みやすい川口市に役立つ活動をしていきたいと決意しております。

（我妻幸寿さんは、故我妻克代さんのご主人です）

お詫び

「私のメッセージ」集の7ページから始まる 石原園美さんの、歴史の叡智がつくった日本国憲法を守る ～『9条』いまだからこそ～この記事の最後の文章が欠落してしまいました。お詫びし、訂正をお願いします。同封の別紙文章（B5版）を、8ページ、4行目から挿入してください。

埼玉民医連退職者の会 広報委員会

肥田先生の映画

「ヒロシマ、そして フクシマ」を観て

神作 信男

肥田舜太郎先生のドキュメンタリー映画「ヒロシマ、そしてフクシマー フランス人監督が追う肥田舜太郎医師 96歳最後の闘いー」を観てきました。

観に行ける唯一の日に、地図を片手に渋谷の文化村通りを上りました。小さな映画館でしたがたくさんの方が来ていました。映画では、肥田先生が歩んできた姿と内部被曝

を明らかにし世界に訴え発信していく姿が描かれていて、その重要さと意味を改めて感



じました。映画の中では、埼玉協同病院や診察室での患者さん役のOB会の金子さんも映っていました。また、最後の映画への協力の紹介のなかに医療生協さいたまや埼玉民医連や本部職員の名前があったのは印象的でした。

観に行った日はラッキーで、フランスのマルク・プティジャン監督が、昨日成田に着いたということで会場に来て会えたことです。会場にフランス語の通訳のできる参加者もいて、監督との質疑でこの映画へのきっかけも聞くことができ「2006年に肥田先生の文章や作品をみて、それからはじめました」とのことで、パンフでも「著書『広島が消えた日』の仏訳を読んで心打たれ、ぜひとも先生の映画を撮ろう」と伝えています。肥田先生の活動のグローバルさを感じました。

この映画のプロデューサーの山本顕一さんとお話しましたが、この方は立教大名誉教授で、この映画をつくるのも手探り状態だったとのことで、ロビーでもまわりの人に「しんぶん赤旗に連絡するのはどのようにするのか」などと聞いていました。この映画は、本当に平和運動・市民運動のひろがり、世界的なひろがりを見せるものだと思います。

この映画のパンフを読んでわかりましたが、映画の冒頭に肥田先生の墓参があるので、それは、マルク・プティジャン監督が初来日しての面会の申込に「墓参りに行く日、中津川駅でなら会える」と答え、監督が中津川にいき初対面の時からカメラを廻して撮影していたとのこと。また、映画のなかで、福島的女性たちの内閣府での強烈な要請シーンがあるのですが、この場面は首相官邸前でダイインでいた時に、監督がカメラをもって福島的女性たちといっしょに内閣府に入りアポなしで日本語もわからずに一人で撮影してきたとのこと。監督のアクティブな行動力と社会性に感心し、これがこの映画をつくる原動力になっていたと思いました。

99歳の肥田先生の生きざまを伝え、内部被曝を告発し、世界に発信し続ける肥田先生の想いをあらわした映画でした。



肥田先生とプティジャン監督

この映画 私も見ましたよ。

山形文子 仲村敬子 小川祥江



学徒出陣の無念

石原 園美

福島大学の一隅にある「信陵公園」の中に、「戦没同窓刻名記念碑」が建立されている。経済学部の前身—福島高等商業学校、福島経済専門学校—の学徒出陣の戦没者（251名）の氏名、戦没年月日、場所が刻銘されている。



その3分の2は1944年以後に斃れている。先輩達は、異境の海や空、南海の孤島、あるいは大陸で、敵に斃れ、あるいは飢餓で無念の死を迎えられた。

その地域は日本軍が侵略し多大の被害の拡がりを示している。

#この学徒出陣は1943年（昭和18年）東條内閣は「在学徴集延期臨時特例」（勅令第755号）—理工系と教員養成系を除く文科系の高等教育諸学校の在校生の徴兵延期措置を撤廃—を公布。同年10月21日神宮外苑競技場での「学徒出陣壮行会」の映像—銃を肩に行進する学生、それを見送る女子学生。—は何度みても涙なしには見られない。こうして、多くの先輩達が、死地へ駆り立てて行った。

#「徴兵猶予撤廃」と平行して「文科系学部・課程の縮小」が進められる1943年10月の「教育二関スル戦時非常措置方策」—曰く、①昭和19年度ノ入学定員ハ文科ニ在リテハ全国ヲ通ジ概ネ三分ノ二ヲ超エシメズ、理科ニ在リテハ所要ノ拡充ヲ図ル ②男子商業学校ニ就イテハ工業高校、農業高校、女子商業学校ニ転換スルモノヲ除キ整理縮小ス

#「理系偏重・文系軽視」の「方策」を、戦時下の特異な出来事と済ますことはできない。先ごろ文部科学省は《国立大学法人の人文社会科学や教員養成の学部・大学院の規模縮小や統廃合を促がす素案》を各大学に通知したと聞く。

この通知は先の「方策」のカタカナをひらがなに書き換えれば、そのまま通知になる。戦争の足音は既に現場に来ている。「軍学共同」の進行とあわせて、厳しく見ていかなければと痛感する。

「少子化」を表に出しているが、その根底には、「理系は役に立つが、文系は役に立たない」という戦時さながらの発想がある。もっと言えば国益や実益が知の世界を蹂躪するという思考が垣間見える。権力は批判精神の衰退・圧殺を狙っていると見える。そうであるなら、もはやファシズム。

#安倍自公政権が強行した戦争法は、学徒出陣で斃れた先輩達の無念・犠牲を踏み躪る暴挙—独裁そのものである。

#「刻銘碑」単なる「慰霊碑」でなく、侵略戦争を告発するモニュメントである。

附一「刻銘碑」の建設に尽力されたのは吉原泰助先生（福島県 9 条の会代表・元福島大学学長）が経済学部長時代の事績（先生は埼玉県立浦和高校卒→東大）



OB会旗
石丸さんから寄贈されました

5.29 埼玉総行動の会場「北浦和公園」には、安保法制廃止！安倍政権打倒！をかかげ一万人近い参加者。わが埼玉民医連OB会も、石丸乾二さんから寄贈された緑の新しい「埼玉民医連退職者の会」の旗を携えて闘いの輪に。

横着な 私の健康づくり

小田 政満

老化を感じるこの頃、骨が弱くなり筋肉も衰え、あちこちが痛くなりました。そこではじめた私の健康づくりは横着な体操です。骨の回復は難しいので筋肉を鍛える事と思い、早く目が覚めるのを利用して、寝たままベッド上でしばらく手足を動かします。その後両手、両足、背筋、腰を伸ばし、ゆっくり息を吐きながら何回か繰り返します。腹筋、背筋、腰の運動は、両足を立てお尻、腰をもちあげ、息を吐きながらゆっくり 20 回。そのままの姿勢で両手を頭の上にして起き上がりを繰り返します。その後、両手両足を伸ばしての起き上がりをゆっくり、息を吐きながら繰り返します。あわせて無理なく自分に合ったやり方でウォーキングもしています。

地域の動き

所沢の仲間
4年ぶりのつどい

山口 昭子

今回、「所沢の集い」をやることができました。
埼玉西協同病院に働く佐藤純子さんと顔を合わすたびに、「ねえ、みんなと会いたいんだ

けど」と声をかけられていたのです。なかなか役員で相談する機会をつくれずにいましたが、4月30日（土）、みんながなじみ深い「たつみそば」やさんに13名が集いました。以前、富岡診療所～西協同病院があった隣の蕎麦屋さんです。

集まったメンバーは、40年以上も前に働いたことのある所沢診療所、医療生協合併前に一緒だった西協同病院、老健さんとめなどの仲間から、一人ひとり思い出が語られました。今回のきっかけを作ってくれた佐藤さんの話を紹介します。

彼女は18歳の高校卒業と同時に、担任の先生に連れられ所沢診療所に来ました。その後、準看護学校に通い看護師として所沢診療所に40年間（途中4年間休職）勤務し、3人の子育てをやり、その3人が医療人（長男はさんとめ勤務）です。

佐藤さんが初めて往診に行った患者さんが夜急変し、近いと思って自転車で一人で行き、帰ってきた時には空が明るくなっていたことを朝礼で報告した事がありました。そのことを覚えていたYさん、思わず涙ぐむ一幕もありました。

佐藤さんは、熊久保先生の看護を最後までさせてもらい、みなさんから感謝されたことを喜んでいました。

又、長いこと小児科医として働いていらした川崎瑞子先生から、ご主人の退院日と重なり出席できないということで、家族の写真と手紙が送られてきたので紹介しました。



退職後の仲間たちの様子も話し合い、楽しかったこと、辛かったことなど久しぶりにいつまでも語りあいました。最後に佐藤さんから「民医

連で働けて本当によかった。もう少し働けるので、何だったら皆さんの面倒も見させて下さい！」に、拍手と、涙が浮かんでしまいました。

あっという間に時間も過ぎ、「又会おうね、元気うちに」と言って別れました。



ぶらり「自然教育園」へ

浦診OB会 渡辺 元子

4月2日、浦診OB会主催の「ぶらり散策」に参加しました。

ビルの立ち並んだ都内の中で、自然の面影を残した“東京都庭園自然教育園”の散策です。10名の参加で、晴天に恵まれる中、自然の草花に触れ懐かしい現役時代の空気を思

い出し、語り合いながらいいひと時を過ごしました。持ち寄ったおにぎりやおやつをおすそ分けしてもらい、とてもおいしくいただきました。

自然教育園の良いところは、都会の中のビルや建物が一切見えず、自然の山中にハイキングに出かけたような気分を満喫できる場所だと思います。また山野草や木々には



名前が書かれ、草花に不勉強な私にもわかりやすく、興味をそそらせるような環境を与えてくれます。また来ようという気持ちになりました。

自然教育園のあとみんなで目黒川の桜並木を歩きました。噂に聞いていましたが、満開の桜が目黒川に沿って植えられ、私たちを歓迎してくれるように咲き誇っています。中目黒まで歩きましたが、みなさん健脚なのにびっくりし、私も負けじと歩きとおしました。思いがけない機会が作れて、これもOB会のみなさんのおかげと感謝でいっぱいです。ぜひまた参加したいと思います。

ポーランドの旅 ～平和が何より～

アウシュヴィッツ強制収容所 松倉徳子



②

- 1 : 死の壁 (被収容者がこの壁前で銃殺刑にされた)
- 2 : 死の門 (強制収容所の鉄道引込線)
- 3 : ヘスの絞首台



①



③

ガイドさんは「忘れないでほしい」「大ぜいの人に見学に来てほしい」「二度とあってはならない」と、繰り返し伝えていました。若者や子どもたちが見学に訪れていました。



地震直前の熊本城 富田孝博



軽井沢の4月 小嶋美智子



さあーて なんてしょう!
栗原和子 「こんにゃくの花」

気軽に
私の一枚



一輪 小川 祥江



梅雨の花 小田 政満

ホームページ、毎月更新しています。ご覧ください

埼玉民医連退職者の会

あとがき

参議院選挙まっただなかの編集になりました。初めて、「選挙はがき」一枚一枚に私からの一言メッセージ。時間はかかりましたが、道で呼びとめられ笑顔で支持の約束が。この広がり、どうか結果につながりますように。今日は、明日は、日程を確認しつつの毎日です。 (K)

埼玉民医連退職者の会 〒333-1111 川口市木曾呂 1347 老健みぬま内